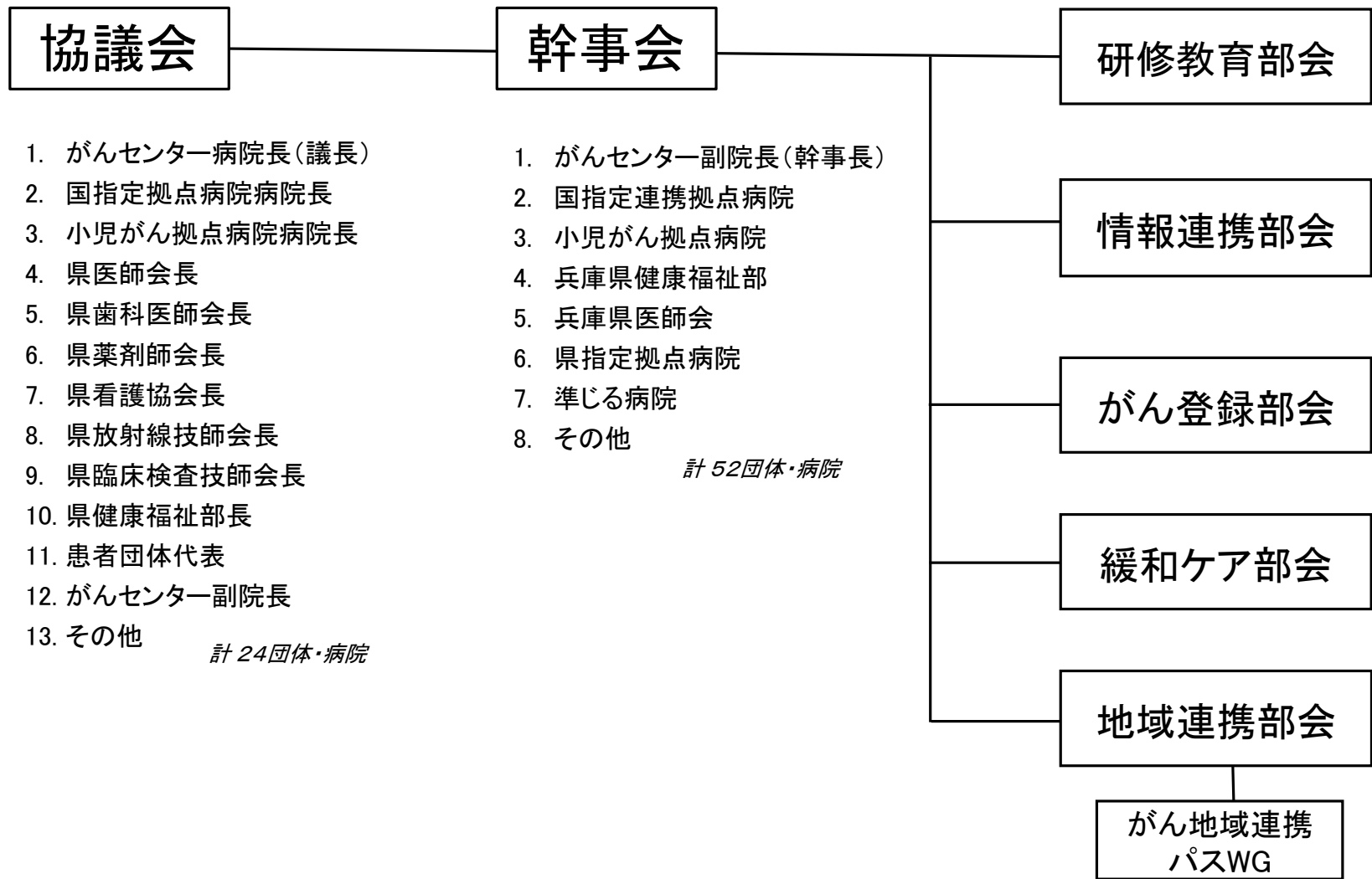


兵庫県がん診療連携協議会の組織体制



(3)協議会・幹事会並びに各部会の平成29年度活動報告
及び平成30年度活動計画について

兵庫県がん診療連携協議会・幹事会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年4月20日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第12回) 開催 ○ 平成29年6月15日(木) 第1回幹事会 開催 ○ 平成30年2月22日(木) 第2回幹事会開催 ○ 平成29年11月18日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第7回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 242名参加 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「ここまで進んだがん治療」 担 当: 神戸大学医学部附属病院(代表)、神戸市立医療センター中央市民病院、 神戸市立西神戸医療センター、県立こども病院
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年4月26日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第13回) 開催 ○ 平成30年6月28日(木) 第1回幹事会 開催 ○ 平成31年2月21日(木) 第2回幹事会開催 ○ 平成30年11月17日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第8回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「 がんと共に生きる(仮) 」 担 当: 姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院

兵庫県がん診療連携協議会「研修・教育」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ○ がん看護実務研修の開催(県立がんセンター) <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年 5月30日～ 9月8日のうち34日間 ○ がん診療連携拠点病院を対象とする <ul style="list-style-type: none"> 「第3回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催 平成29年9月23日(土) 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室 テーマ:「免疫チェックポイント阻害剤～チームで行う副作用マネジメント～」 20名参加 ○ セミナーの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修・教育部会セミナー 平成29年10月7日(土) テーマ:「外来化学療法の10年間と今後の展望」 兵庫県民会館「けんみんホール」 155名参加 ・ 放射線セミナー 平成29年11月25日(土) 神戸市教育会館 大ホール テーマ:「前立腺がんの診断と治療-up date-」 108名参加 ・ 検査セミナー 平成30年1月13日(土) 兵庫県私学会館 テーマ:「乳がん」検査と治療 up to date 130名参加 ・ 薬剤師セミナー 平成30年1月20日(土) 兵庫県私学会館 テーマ:「胃癌治療の最新の話」 172名参加 及び「クリニカルクエスチョンに基づく薬剤師からのエビデンスの発信 ～がん化学療法、支持療法そして緩和ケア～」 ○ 共催研究会・県民フォーラムなど <ul style="list-style-type: none"> ・ 第7回ひょうご県民がんフォーラム 平成29年11月18日(土) 242名参加 テーマ:「ここまで進んだ がん治療」 兵庫県民会館「けんみんホール」 担当施設:◎神戸大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院 神戸市立西神戸医療センター、県立こども病院 (地域別で持ち回りにて開催する)(再掲)
平成30年度の活動計画及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ がん看護実務研修の開催(県立がんセンター) ○ がん診療連携拠点病院を対象とする <ul style="list-style-type: none"> 「第4回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催 平成30年10月6日(土) 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室 テーマ:「未定」 ○ セミナーの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・放射線セミナー 平成30年10月13日(土) テーマ:「子宮がん(頸癌、体癌)」 県民会館11階パルテホール ・研修・教育部会セミナー 平成30年10月27日(土) テーマ:「食道がんセミナー ～食道がん治療におけるチーム医療のかかわり～」 兵庫県民会館「けんみんホール」 ・検査セミナー 平成30年12月 8日(土) テーマ:「未定」 兵庫県私学会館 ・薬剤師セミナー 平成30年12月15日(土) テーマ:「未定」 兵庫県私学会館 ○ 共催研究会・県民フォーラムなど <ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回ひょうご県民がんフォーラム 平成30年11月17日(土) テーマ:「がんと共に生きる(仮)」 兵庫県民会館「けんみんホール」 担当施設:◎姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院 (地域別で持ち回りにて開催する)

《平成29年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成30年 3月 末 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
研 修 教 育 部 会	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	兵庫県では、平成19年からがん診療連携協議会を組織し、幹事会の中の研修教育部会において、がん疾患に関連する手術療法、化学療法、放射線療法、に携わる医療関係者の育成と、チーム医療の推進を図ってきており、さらに進める方針。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立がんセンターにおけるがん看護実務研修の開催 (実施期間:平成29年5月30日～9月8日) ・参加者増加のため、聴講生募集案内を広報誌に同封して県内851施設に送付。 ・多職種連携を推進するため、聴講生は看護師以外でも参加可とする。 ・聴講者が興味のある講義に参加しやすいように、聴講内容の狙いを整理し、関連する講義内容を1日に固めるよう調整 ・がん医療の進歩に合わせて講義内容の見直しを実施し、免疫チェックポイント阻害剤や遺伝子治療、せん妄やオンコロジックエマージェンシー等の講義を追加する。 	H30年 3月末	○	概ね 達成	<ul style="list-style-type: none"> ・がん実務者研修受講者は15名と前年度より5名増加し、院外聴講者は、延べ466名で、前年度より1.7倍に増加した。訪問看護ステーションの参加者も延べ46名あり、地域の看護師の知識向上に貢献できた。 ・フォローアップ研修のアンケート結果は、知識が実践で役立った人は83%、実践能力が高まった人は58%、自部署でがん看護の充実に向けた取り組みができた人は25%であった。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県内のがん医療に携わっている施設を見直し、送付していた191施設を213施設に増やした。訪問看護ステーションには広報誌等とともに送付する。 ・がんに関する知識の向上のみで終わらず、実践に繋がるような研修企画を立案する。 ・研修内容を、知識編と実践編とに整理する。
	研修教育部会で9年間にわたってセミナーやフォーラムを開催し、一定の成果が得られたが、拠点病院間、各圏域での周知不足や意識の差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種セミナーの開催 1) 外来化学療法セミナー(仮) 平成29年10月7日(土) 県民会館「けんみんホール」 2) 放射線セミナー 平成29年11月25日(土) 神戸市教育会館大ホール 3) 検査セミナー 平成30年1月13日(土) 兵庫県私学会館大ホール 4) 薬剤師セミナー 平成30年1月20日(土) 兵庫県私学会館大ホール 	H30年 3月末	○	概ね 達成	<ul style="list-style-type: none"> 医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師など、チーム医療に関わる医療従事者を対象にセミナーを行い、医療レベルの向上を図っている。 ・外来化学療法セミナー 155名参加 ・放射線セミナー 108名参加 ・検査セミナー 130名参加 ・薬剤師セミナー 165名参加 	継続	国指定、県指定及び準じる病院の拠点病院に対して、引き続き積極的な参加を呼びかける。	
	セミナーやフォーラムへの参加者の増加には繋がっていない。今後も、さらに、セミナーへの参加者増に向けた企画立案など、工夫や改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民フォーラムなど開催 第7回ひょうご県民がんフォーラム 日時：平成29年11月18日(土) 場所：県民会館「けんみんホール」 テーマ：最新のがん治療(仮) ○ 協議会との共催に同意が得られた研究会・懇話会の順次開催 (http://www.hyogo-ganshinryo.jp/index.htmlに掲載) 	H30年 3月末	○	概ね 達成	<ul style="list-style-type: none"> 県民へのがん治療への理解を深めるため、H29年度は「ここまで進んだがん治療」をテーマとして取上げ、最先端の情報を発信した。 第7回ひょうご県民がんフォーラム 参加人数 242名 地域毎に行われている研究会などの共済、後援を行っている。 共催:15件 後援:18件 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続いて、第8回ひょうご県民がんフォーラムを開催し、県民へのがんに対する知識の啓発を目的とした啓蒙活動を続けていく。 各研究会との連携を考慮し、引き続き研究会などとの共催、後援を行う。 	

(注)実施管理・区分欄の記入について

○評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《平成30年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成30年 4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
研 修 教 育 部 会	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	がん看護の知識を幅広く学び、実践されているが、実臨床の内容に関しての向上にはつながっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を自部署での看護に活かせるように研修内容を検討し、研修目標を明確にする。標準的に必要ながん治療や看護について学ぶ知識編、免疫チェックポイント阻害剤・遺伝性腫瘍等最新の情報を知る知識編、基本を修得し実践できるように演習するスキルアップ実践編の3つにわけ。 ・研修参加の対象者をがん看護の実践力向上を図りたい方と明確にし研修企画をする。 <p>★実施日時：平成30年6月1日～9月7日 フォローアップ研修として平成31年2月22日</p>	H31年3月					
		研修教育部会で10年間にわたってセミナーやフォーラムを開催し、一定の成果が得られたが、拠点病院間、各圏域での周知不足や意識の差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ セミナーの開催 <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線セミナー 平成30年10月13日(土) 県民会館「パルテホール」 2) 研修・教育部会セミナー 平成30年10月27日(土) 県民会館「けんみんホール」 テーマ：「食道がんセミナー」～食道がん治療におけるチーム医療のかかわり～ 3) 検査セミナー 平成30年12月8日(土) 兵庫県私学会館 4) 薬剤師セミナー 平成30年12月15日(土) 兵庫県私学会館 	H31年3月					
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民フォーラムなどの開催 第8回ひょうご県民がんフォーラム 日 時：平成30年11月17日(土) テーマ：「がんと共に生きる(仮)」 担当施設：姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院 ○ 協議会との共催に同意が得られた研究会、懇話会の開催及び後援名義の使用承認 (http://www.hyogo-ganshinryo.jp/index.htmlに掲載) 	H31年3月					

(注)実施管理・区分欄の記入について

○評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。



TOPICS

医療関係者の方へ

04/20「第29回 兵庫県大腸癌治療研究会」を開催します。 NEW!

医療関係者の方へ

04/11 第2回幹事会 議事録(2月22日開催)の議事録を掲載しました。 NEW!

一般の方へ 医療関係者の方へ

03/31「第81回 西宮市市民健康講座」を開催します。

医療関係者の方へ

03/22「緩和ケア公開講演会」を開催します。

一般の方へ 医療関係者の方へ

02/25 神戸医療センター「第9回 市民向けがん講演会」を開催します。

医療関係者の方へ

02/08「兵庫県立尼崎総合医療センター 第8回がん診療連携拠点病院医療者研修会」を開催します。

一般の方へ 医療関係者の方へ

01/27「第80回 西宮市市民健康講座」を開催します。

医療関係者の方へ

01/24「第76回 兵庫緩和ケア研修会」開催します。

- がん診療連携拠点病院
- 兵庫県がん地域連携バス
- 兵庫県緩和ケア研修会
- 兵庫県がん対策推進計画
- 兵庫県がん登録情報
- がん相談支援センター一覧
- 関連情報リンク

兵庫県がん診療連携協議会「情報・連携」部会関連

項目	内容
<p>平成29年度の活動報告及び今後の検討課題等</p>	<p>1 活動計画</p> <p>・がん相談実務者ミーティングの開催;4回/年</p> <p>第33回会議 2017年6月10日(土) 13:30～15:30 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】事例検討、その他</p> <p>第34回会議 2017年9月30日(土) 13:00～15:30 場所:神戸大学医学部附属地域医療活性化センター 【内容】「兵庫県がん相談員研修」として別紙研修企画に基づいて開催 ※国立がん研究センター認定がん専門相談員の単位研修</p> <p>第35回会議 2017年12月16日(土) 14:00～16:00 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】ピアサポーターを交えたピアサポーター活用事業に関する意見交換会</p> <p>第36回会議 2018年3月10日(土)(予定) 13:30～15:30 場所:神戸大学医学部附属病院 第一病棟2階 共通カンファレンスルーム 【内容】PDCA実施状況チェックリストを用いた課題への取り組み状況評価の共有</p> <p>・がん相談実務者ミーティング事務局会議の開催</p> <p>第17回会議 2017年6月10日(月)15:30～16:50 場所:兵庫県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.兵庫県がん相談実務者ミーティングの今年度の計画検討 2.兵庫県がん相談員研修の計画検討 3.神戸大学との共催によるピアサポーター養成研修の開催について 4.ピアサポーターの質の維持・向上を目的としたフォローアップ研修開催について <p>第18回会議 2017年11月9日(木) 15:00～17:00 場所:神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 談話室 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.兵庫県のがん対策推進計画(素案)の確認 2.ピアサポートの体制づくり・継続学習の支援について <p>第19回会議 2018年2月14日(水) 10:00～12:00 場所:神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 第3会議室 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.今年度の活動評価と次年度の目標・計画立案 2.ピアサポート事業研修内容の検討 3.平成30年度 がん相談実務者ミーティング開催日の検討 <p>2 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会</p> <p>第9回部会 2017年7月12日(水) 13:00～16:30 場所:国立がん研究センター国際交流会館3階 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.第3期がん対策推進基本計画案の概要とがん相談支援センターの機能、役割について 2.「がん相談支援センターの相談対応体制と情報提供環境に関するアンケート」の中間報告ならびにそれに基づく今後の部会活動について 3.その他
<p>平成30年度の活動計画及び今後の検討課題等</p>	<p>1 活動計画</p> <p>1)がん相談実務者ミーティングを年4回開催する</p> <p>平成30年度第1回会議 2018年6月予定 【内容】 就労関連合同会議;産業保健総合支援センター、ハローワーク、兵庫県社労士協会</p> <p>平成30年度第2回会議 2018年10月6日(土)予定 【内容】認定がん専門相談員申請に係る認定単位研修</p> <p>平成30年度第3回会議 2018年12月15日(土)予定 【内容】患者会との交流会</p> <p>平成30年度第4回会議 2019年3月23日(土)予定 【内容】活動評価</p> <p>2)事務局会議の開催</p> <p>平成30年5月30日(水) 会場:神戸大学医学部附属病院 内容:今年度の計画確認</p> <p>3)地域がん相談支援フォーラムin近畿開催に向けての準備</p>

《平成29年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成30年3月末 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
情 報 連 携 部 会	がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める	県内のがん相談支援センターの支援提供体制については、統一したツールに基づく評価が必要である。	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う ①2017年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリストを用いてチェックし、問題点を明らかにする ②上記は毎年3月に定期的に行うこととする 2)各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上を図るために質の改善の努力を行う ①PDGAサイクルの書式に則り、2017年6月までに医療サービスの質にかかる目標と、目標を達成するための実現可能な達成計画を立てる 3)各病院の相談員の能力の維持向上を図る ①実務者ミーティングを年4回開催し、研修会、事例検討、経験交流、患者会との交流などを行う	H30年3月	○	達成	1)2) ①2017年2月の実務者会議で、各施設でチェックリストの記入を行い、各病院の質の改善計画を目標管理の様式に基づいて立案した。 3) ①実務者会議を計画通り、年4回実施した。内容も計画通りで、第1回に事例検討、第2回は研修会、第3回はピアサポーターとの交流会、第4回は活動評価を実施した。	継続	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う ・6月までに各施設でチェックリストを活用し、問題点を明らかにし、評価を翌年3月に実施する 2)各病院の相談支援部門の活動について、その質向上を図るために質改善の努力を行う ・毎回の実務者会議で目標の進捗管理の時間を15分とする 3)各病院の相談員の能力維持を図る
	がん患者の就労支援を行う体制づくりをする	県内の各がん相談支援センターでの就労支援体制の整備が十分ではない現状がある。	1)兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センターと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労を継続できるよう、産業保健総合支援センター、ハローワークとの協働を図る	H30年3月	△	概ね達成	1) 第4回会議の際に、兵庫県社労士協会、産業保健総合支援センターとの連携に関する資料を作成し、各拠点病院に情報提供を行った。 2) は実施できなかった	継続	1)兵庫県社労士協会、産業保健総合支援センターと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労継続できるよう、産保センター、ハローワーク、産業医と協働を図る ①第1回会議で、社労士協会、産保センター、ハローワークとの合同ミーティングを行う
	がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する	県内のピアサポートの体制整備が不十分である。	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する ①神戸大学と協働してピアサポーター養成講座を開催する(9/30・10/1開催予定) ②ピアサポーター養成講座受講修了者の継続教育を目的としてフォローアップ研修会を実施する(12月予定) ③国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内で3か所設ける	H30年3月	○	達成	①9月30日・10月1日の2日間で実施 ②10月1日と12月16日AMで実施した ③研修を修了したピアサポーターが院内サロンに参加している施設は11施設だった。また、2対1の個別対応をしている施設は2施設だった。その他、ピアサポーターと病院契約を行いサロン活動をしている施設や院内サロン立ち上げに向けてピアサポーターと協働している施設もあった。	継続	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する。 ①兵庫県主催のピアサポーター養成講座を開催する ②養成講座修了者の継続教育を目的として、フォローアップ研修を開催する ③国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内で3か所設ける
	情報・連携部会の組織を強化し、迅速に意思決定し事業を行える体制を整える	がん相談実務者MTは部会の下部組織となっているため、協議会の情報伝達や意思決定の遅滞を招いている	1)情報・連携部会と実務者ミーティングを合併する ①2017年6月までに情報・連携部会の部会員として、がん相談に従事する実務者を選出してもらうよう各病院に依頼する ②2017年7月を目処に実務者ミーティングを廃止する ③実務者ミーティングの事務局は情報・連携部会事務局と名称を変えてその機能を存続させる ④情報・連携部会の開催や事務については、兵庫県がん診療連携協議会事務局に担当してもらうこととする	H30年3月	△	未達成	①は、部会長より継続的に相談実務者を部会員として頂くよう依頼を行っている。2018年3月1日現在、国指定14病院のうち、実務者が部会員になっているのは10施設、県指定は9病院中7病院であった。 ②③④は実施できず	継続	1)情報連携部会と実務者ミーティングを合併する ①2018年6月までに情報連携部会の部会員として、実務者を選出してもらうよう各病院に依頼する ②平成30年度から、実務者ミーティングを廃止、情報連携部会実務者ミーティングに変更 ③事務局会議は、部会事務局を名称を変えて、機能を存続させる
	県内のがん相談支援の質向上を推進する人材を育成する	県内でのがん相談支援の質向上を推進する人材が不足している	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する ①がん相談実務者ミーティングで、認定に必要な研修を1回は開催する ②各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的にを行うように部会からも働きかけを行う ③国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修に受講生を派遣する。	H30年3月	○	達成	1)今年度新たな認定者が5名となり、県内認定者は合計18名となった。国指定拠点病院のうち7病院に認定者がいる状況となった ①9月30日に研修を行った ②部会を通じて実務者ミーティングで働きかけを行った ③3名参加。3日間の研修を修了した	継続	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する ①がん相談実務者ミーティングで認定に必要な研修を1回は開催する ②各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように部会からも働きかける ③がん対策情報センター主催のがん相談指導者研修に受講生を派遣する

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《平成30年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成30年4月1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
					区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)	
情 報 連 携 部 会	がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める	各病院における相談支援部門の活動の自己評価、目標管理が定期的に実施されていない。	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う ①2018年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリスト用いてチェックし、問題点を明らかにする ②上記は毎年3月に行うこととする 2)各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上をはかるために質の改善の努力を行う ①目標管理の書式に則り、2018年6月までに医療サービスの質にかかる目標と目標を達成するための達成可能な計画を立てる ②年4回開催する実務者ミーティングの際に、毎回15分の目標の進捗管理の時間をとる 3)各病院の相談員の能力の維持向上を図る ①実務者ミーティングを年4回開催し、研修会、事例検討、経験交流、患者会との交流などを行う	H31年3月					
	がん患者の就労支援を行う体制づくりをする	昨年度、産業保健センター、ハローワークとの協働が効果的に行えていない。	1)兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センター、ハローワークと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労継続ができるよう、産業保健総合支援センター、ハローワーク、産業医との協働をはかる ①平成30年度第1回実務者ミーティングで、兵庫県社会保険労務会、産業保健総合支援センター、ハローワークとの合同ミーティングを行う	H31年3月					
	がん患者のピアサポーターの体制づくり・継続を支援する	がん患者のピアサポートに取り組む人材が質・量ともに充足していない	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する ①兵庫県主催のピアサポーター養成講座を開催する ②ピアサポーター養成講座受講修了者の継続教育を目的として、フォローアップ研修会を実施する ③国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内に3か所設ける	H31年3月					
	情報・連携部会の組織を強化し、迅速に意思決定し、事業を行える体制を整える	情報連携部会が実際のがん相談支援センターを運営統括していない。部会が開催されない。実務者ミーティングが部会に準じた役割を果たしている。	1)情報・連携部会と実務者ミーティングを合併する ①2018年6月までに情報・連携部会の部会委員として、がん相談に従事する実務者を選出してもらうよう各病院に依頼する ②平成30年度より、実務者ミーティングを廃止し、情報・連携部会実務者ミーティングに変更する ③実務者ミーティングの事務局は情報・連携部会事務局と名称を変更し、その機能は継続させる ④情報・連携部会の開催や事務については、兵庫県がん診療連携協議会事務局に担当を依頼する。	H31年3月					
	県内のがん相談支援の質向上を推進する人材を育成する	兵庫県内の国指定の拠点病院で認定がん専門相談員が充足していない	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する ①がん相談実務者ミーティングで、認定に必要な研修を年1回以上開催する ②各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように部会から働きかけを行う ③国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修に受講生を派遣する。	H31年3月					
	平成31年地域相談支援フォーラム in 近畿を開催する	当県でフォーラムの開催が実施できていない	1)国立がん研究センターがん対策情報センターの地域相談支援フォーラム共催団体に応募する ①来年度以降の地域相談支援フォーラムの枠組みについて、国立がん研究センターの地域相談支援フォーラム事務局に問い合わせる	H31年3月					

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

第33回 がん相談支援センター実務者ミーティング 議事録

日 時 : 平成29年6月10日(土) 13:30~15:30
場 所 : 兵庫県立がんセンター 2階 大会議室
当 番 : 兵庫県立柏原病院
出席者 : 別紙出席者名簿参照

【 議 題 】

(1) 事例検討

※内容詳細については、次回実務者ミーティングにて配布します。

(2) その他連絡事項

●平成29年度ピアサポーター養成研修・フォローアップ研修について

開催日 : 9月30日(土) ・ 10月1日(日)

場 所 : 神戸大学医学部附属病院 施設

※詳細については、後日メーリングリストにて連絡

●次回 日 程 ▶ 9月30日(土)

場 所 ▶ 神戸大学医学部附属病院 施設

当番病院 ▶ 県立淡路医療センター

第34回 がん相談支援センター実務者ミーティング 議事録

【平成29年度兵庫県がん相談実務者研修～ピアサポーターの効果的な活用のために】

日時：平成29年9月30日（土） 13:00～15:30

場所：神戸大学医学部附属地域医療活性化センター 2階

当番：兵庫県立淡路医療センター

出席者：31名（別紙 “出席者名簿” を参照）

1. グループワーク①

テーマ：「自施設のピアサポーター活用の現状と課題の共有」

各グループにて情報交換を行う。（結果は“5. 全体共有”を参照）

2. 講義1 講師：白石恵子先生（九州がんセンター サイコオンコロジー科 臨床心理士）

福岡県のピアサポーター活用の現状

<ピアサポーター活用のきっかけ>

- ・2010年頃、ピアサポーターに興味を持っていた乳腺科の医師と乳がん経験者数名が、当時すでに有効に活用されていたアメリカへ行き、そこのピアサポーター団体とディスカッションをしたことが始まり。既に同じがん種の人をマッチングさせる仕組みがあった。
- ・2012年頃、ポートランドへ研修に行った際、病院のあちこちにボランティアのピアサポーターがニコニコと座っており、いつでも相談を受けられるような体制が整っていた。

<ピアサポーター活用の問題点>

- ・外来の途中にピアサポーターを紹介することを負担に思う医師・看護師が多い。
- ・ピアサポーターに興味のない看護師もいるので、なかなか患者さんに広まらない。
- ・1対1で相談を受けた場合、「言った言わない」という問題が起こることがある。
- ・「内容が重すぎて受け止めきれない」など、ピアサポーターに負担がかかる。
- ・2013年～2015年、県のモデル事業として、ピアサポーターの養成講座を開催するが、養成講座を受けたからといって、ピアサポーターとして適任かどうかは分からない。
- ・不要な発言や何かあった時に誰が責任をとるのか。
- ・がん種が違くと治療の方法なども違うため話をするのが難しい。

<ピアサポーターの活用状況>

- ・新病院開設時にピアサポーターが自由に使える大きなサロン部屋やロッカーを設けた。
- ・毎週水曜の午後、サロンに人が集まり、「親身に聞いてくれた」と喜んで帰る人もいる。
- ・サロンの周知活動として、院内放送で呼びかけたり、ティッシュを配ったりしている。

- ・病院 vs.ピアサポーター&患者の対立構造ができないよう、要望や不満が膨れ上がる前に上層部に報告するなどして対処している。

3. 講義2 『ピアサポーター養成と活動の実際～愛媛での取り組み～』

講師：松本陽子先生（NPO 法人 愛媛がんサポートおれんじの会 理事長）

ピアサポーター養成と活動の実際～愛媛での取り組み～

<ピアサポート活動を始めたきっかけ>

- ・自分ががんで入院した時、同室の患者さんがタオル帽子を縫ってくれた。
- ・検査結果が悪くて落ち込んでいた時、同室の患者さんがアドバイスをくれたが、医師や看護師よりも経験者に言われた方が素直に受け止めることができた。
- ・もし元気になったならば、同じような患者のために力になりたいと思い、患者家族の会を立ち上げる。

<オレンジの会のピアサポート活動>

- ・任意団体として独自にピアサポーター養成活動を始めるが、行政に委託事業の申請を出せないためNPO法人化する。現在は県の委託事業として、ピアサポーターの養成研修を県のお金で開催している。
- ・ピアサポーターの派遣はボランティアではなく、県の予算を取り、賃金と交通費を支払いプロとして活動している。
- ・病院サロンと町なかサロンがあり、院内サロンは県内7拠点病院中5施設に派遣、残り2施設は地理的に遠いため、地元の方と病院スタッフがメインで運営している。院外サロンは県の予算で運営しており、利便性の高い市街地に常設されている。週に一度は医師や看護師による相談も受けている。
- ・週末に各地でセミナーを開催したり、俳句の町らしく句会を行ったり、緩和ケア病棟への見学会を行ったりしている。

<愛媛での養成事業>

- ・県の委託事業として、年に1回2日間、合計14時間の基礎研修を行っている。
- ・厚生労働省「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム」のテキストや産業カウンセラーであるおれんじの会副理事長のオリジナル教材を使用し傾聴に力を入れている。
- ・基礎研修後、【継続研修、実地研修、レポート提出】→【最終面談】→【登録】→【活動開始】という手順を踏み、現在25名登録、23名が活動している。

<事例検討会>

- ・事例検討会を2か月に1回開催している。難しかった事例を抽出し、みんなでディスカッションしている。年6回開催中、3回以上欠席したらピアサポート活動を停止する。（ピアサポート活動を続けるという強い意志と自己決断を課している）

- ・ピアサポーターは面と向かって非難されることや自分の対応がまずかったのではないかという負荷を感じることがあるため、事例検討会は心の重荷を解いたりピアサポーター同士の相互理解や信頼にもつながる。

<相談支援センターとの関わり>

- ・それぞれのサロンにピアサポーター責任者を1人設定し、相談支援センターの責任者と企画や運営などを協議している。
- ・再発した乳がんの治療費が払えなくて半年間病院へ行っていないという患者さんなどは、相談支援センターへ紹介している。

【注意していること】

- ・運営主体はあくまでも病院であり、それぞれの病院の運営方針に従っている。
- ・おれんじの会のPRや入会の勧誘はサロンでは行わない。参加者から問い合わせがあれば、他の患者団体などの情報も一緒に提供し、選択をゆだねている。
- ・サロンの情報を病院と共有するため、報告書を提出し、意見交換会を開催している。

【期待していること】

- ・サロンがどのように意義があることなのか、特にピアサポーターを必要としている患者の情報を一番にキャッチしている病棟看護師へ周知して欲しい。
- ・ピアサポーターを必要とする患者・家族への情報提供を相談窓口で行ってほしい。

<国の動き>

【第3期がん対策推進基本計画】より、

[現状・課題]

- ・「がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供、患者同士の体験を共有できる場の存在は重要であることから、都道府県等は、ピアサポート研修を行い、ピアサポーターを養成している。」

[取り組むべき施策]

- ・「ピアサポートについては、国が作成した研修プログラムの活用状況について、実態調査を行う。ピアサポートが普及しない原因を分析した上で研修内容の見直しや、ピアサポートの普及を図る。」

◎ピアサポートが重要であることを認識されており、今後、ますます踏み込んだものになると思われる。また、拠点病院の指定要件が見直されており、サロンの設置が必須になると思われる。

<医療とピアサポートの連携>

- ・医療者による助言・問題解決と同時にピアサポーターなどの仲間による共感・問題の整理な

ども重要であり、2つの手があって初めて患者を支えることができる。

- ・患者は命が助かったからといってそれで終わりではなく、そこから重荷を背負って生きていかなければならない。その支えは患者力だけでは不十分であり、ピアサポーターと医療従事者が連携・協力していく必要がある。

4. グループワーク②

テーマ：「自施設で実施可能なピアサポーターの活用の在り方」

各グループにて情報交換を行う。(結果は“5. 全体共有”を参照)

5. 全体共有

<現状と課題>

- ・患者会がすでにあるので、ピアサポーターについて上層部の理解が得られない。また、県の方針が不明確で活用しにくい。
- ・サロンの周知を院内スタッフや患者・家族にもできていないため、集まる人が少ない。
- ・支えることの不安や覚悟、生活・体調・高齢、責任や保障、遠方で開催される養成研修を受講できないなど、ピアサポーターになってくれる人材がいない。
- ・医療の相談を受けない原則への理解が難しく、不要な情報を伝えられる恐れがある。また、養成講座を修了しても、経歴だけではわからない人の資質・対応力、2人体制にした場合の相性など、人間関係がとても難しい。

<活用の在り方>

- ・上層部に理解してもらうため、活動内容や情報など具体的な事例を報告・発信する。
- ・サロンやピアサポーターをPRするためのポスターや冊子などがあれば良い。
- ・ピアサポーターの不安や負担がなくなるよう、責任・保障、相談場所、交通費・相談料など、きちんとした体制を作る必要がある。

<白石先生よりまとめ>

- ・ピアサポーターに相談員のレベルを求めない。ピアサポーターだからこそできることがある。
- ・無理やりにピアサポーターを紹介するのではなく、その患者にとっての必要性を見極め、患者さん自身で行くようにすることでトラブルが起こりにくくなる。
- ・ピアサポーターの良いところを最大限活かすためには、まず私たちがピアサポーターを信じるという気持ちが大切である。

※次回実務者ミーティングの開催について

日時：H29年12月16日(土) 当番：姫路赤十字病院

第 35 回 がん相談支援センター 実務者ミーティング 議事録

日時：2017 年 12 月 16 日 14：00～16：00

場所：兵庫県立がんセンター2階 大会議室

当番病院：姫路赤十字病院 井上豊子 福井由紀子

出席人数：実務者 33 名（別紙参照）ピアサポーター14 名

1. オリエンテーション 14：00～14：10

2. グループワーク → 結果の共有 14：10～15：30

テーマ『ピアサポーターの活用に向けた現状と課題について』

A グループ

《現状》

ピアサポートは動いていない施設ばかりである。

施設としてはトラブルに対して慎重にならざるを得ない。

《課題》

サロンの開設からはじめていく→土壌づくりからはじめていく。

院内での周知のため広報をすすめる。顔が見える関係からはじめていく。できるところからはじめていく。

B グループ

《現状》

サロンを定期的に開催→知識をもって対応できる

面談の実施までは至っていない。今回、活動内容の共有ができた。

《課題》

ピアサポーターとの関係性ができていない状況での活用はハードルが高い

→対策としては院内のサロンを活用していく。ピアサポーターにサロンに入っただき、活動の場をつくっていく。

院外でのサロンでの活動などを知ることで、顔の見える関係や広報につながるのでピアサポーターにも参加していただく。

C グループ

《現状》

ピアサポーターの活用の準備ができていいるのは一部施設だけの現状。

病院内で上層部との調整が困難な施設もある。上層部は患者間のトラブルを心配しており、今後もピアサポーターの活用に関する調整が必要。

《課題》

サロンに参加して頂き、その後の流れで個別に話を聞いてもらう方が自然かもしれない。

相談支援の中でピアサポートのニーズもあるので、今後も患者に広報していく必要がある。

2名で面談をしなくてはならないが、相談員としては2対1で圧迫感はないか心配。

→二人で補い合ったり、調整しあうなどの力動が働くので圧迫感の心配はない。

今後、ピアサポーターの活用としては、型にはまらずに進めていくことが大切。

D グループ

《現状》

院内からのなり手が無いのが問題としてあがった。サロンの中で興味のある人を見つけることも難しい。

乳がんの患者に限定して、現在はなり手を探している。

《課題》

ピアサポーターってなに？という状況がある→啓蒙が大事。

開催場所が病院だと限界があり、場所の確保が課題である。→病院個々が行うのではなく、県を中心としたシステムの構築が必要。ピアサポーターによる講演などの広報も重要

E グループ

《現状》

ピアサポーターを低いハードルで活用できるようにしたい。利用者が利用しやすい環境をつくりたい。

利用者が必要としているときにサービスを活用できない状況でもある→広報が重要

《課題》

ピアサポーターもチームの一員としての認識が大事。医療者とくに医師から紹介されることも大事ではないか。

現在の当たり前を変えていくことが大切、がんになる前からの広報も大切にしていきたい。ピアサポーターの広報、同時にピアサポーターになれることも広報する。

また、同時にニーズに応じていくことも大きな役割だと思う。

→療養生活上の工夫、自分がどうやって工夫していったかの情報の提供ができるという役割もある。

F グループ

《現状》

地域差があることを実感している。患者さん自身ががんであることを人に知られたくない状況が多い地域→自分が病気であることを話すことが難しい状況である。しかしピアサポーターの必要性は感じている。

遠方からのサポーターさんを活用するためには、交通費や保障の定義が重要になってくる。

→自費になってしまうと、ピアサポーターも続けにくいというのが現実だと思う。

《課題》

活発に活動しているサロンの見学に行く。

パンフレットだけでは伝わりにくいものもあるが、サポーターからもアピールしてもらう方が伝わりやすいこともある。

サロンの活用も大事にしていく。

広報を積極的に行っていき、利用者のハードルを下げていく努力が大切だと思う。

《グループワークのまとめ》

- ・2対1の活動が進んでいない現状がある。
- ・周知の問題、上層部の理解が得られないこと、トラブルに対する不安、2対1での活動への不安などが共通した問題としてあがった。
- ・対策としてはサロンの活発化があがっていた

《ディスカッション》

1)病院の中でピアサポーターに関する講演を行うというアイデアがあったが、具体的に教えてほしい。

回答：病院の中でピアサポーターのなり手が少ないというのは、イメージがつかないという要因もあると考えている。このため、ピアサポーターから他の病院のサポーター候補生に伝えていくことで、顔が見えたり、自分たちにできることを知ってもらえるのではないかと考えている。

→ピアサポーター自身が、院内のサロンに積極的に参加していき参加者にも伝えていくことも大事だと思うとの意見もあった。

2)同じ兵庫県の中でも地域差があることについて

がんをがんと認めてがんサロンに行ける人と、行くことでその人はがんだ、ということを知られることに対する抵抗感からなかなか参加できないという現状がある。

また多くの場合、神戸方面で研修が行われるので、遠方から参加することも困難だという問題もある。地元でピアサポーターの研修ができれば、ピアサポーターに興味のある人も参加しやすいし、やりやすいのではないか。

地域でがんサロンマップをつくってはどうか→近隣のがんサロンならサポーターも参加しやすいのではないか。

研修が年1回ではなく多数回、開催することで困ったことなどを忘れないうちに共有できるのではないか。

3)ピアサポーターであることを証明するカードなどの導入に対する要望

ピアサポーターより、自分自身が登録されているピアサポーターであることを証明する手段が何もないので、携行して身分保障できるカード上のものを作成してもらいたいという要望が多い。実際にかん市民パネルのピアサポーターに登録されている人からは、カードを携帯することが広報にも有用だったという実感があるので検討してもらいたい。

4)ピアサポーターとして活用されないことに対する問題提起

今までがん患者さんを支えるためのいろんな活動を今まで行ってきた実績はあるが、ピアサポーターとして登録しても特定の患者会に所属していない場合、自分の経験がどこにも活用されないのどうしたら良いのかという思いがある。

→自分自身を活用してもらえよう、サロンなどに顔を出していただき、活用してもらえ関係性作りからはじめてみてはどうだろうか。

5)契約書の基盤ベースとなるものを県がつくるとなっていたが、どうなったのか？

ある程度の契約が無ければ交通費などの規定がなく具体的な活動に結び付けにくいという思いがある。

→県より：病院ごとに多彩な事情があるので、県としては統一したものをつくる方向ではないというのが去年の話と聞いている。各施設の実情を踏まえて、作成の方向で検討してもらいたい。

《兵庫県から》

院内への周知、トラブルへの対処をどうしていくのか、上層部の理解がなかなか得られないなどさまざまな問題があることがわかった。

制度的に問題がないというものではないことも認識している。県としても問題に対してできるものに関しては対応を考えていきたいと考えている。

活動ができないという声もあったが、まずは顔が見える関係が必要だと思うので サロンへの参加などを検討してもらいたい。

地域ごとの研修の開催や多数回の開催という意見に関しては、何回の開催が現実的なのか、考えていきたい。

登録証の希望に関しては、『認定証』となるとハードルが高いが、『登録証』というものなら発行できないか前向きに検討したい。公的に出すものなので、期間設定をするなどの具体的な検討をしていきたい。

3.連絡事項 15:30~16:00

・西神戸医療センターより

研究(インタビュー)への参加者募集のお知らせ。

・県立がんセンターから

地域がん支援フォーラムイン近畿@奈良が2月17日(土)のお知らせ。

・次回の実務者ミーティングについて

今回は3月10日に開催予定。神大共通カンファレンスルームで関西労災病院が担当病院。

今回は各病院でPDCAサイクルの評価したものを持ち寄り、今年度の活動の内容と次年度の取り組みを発表し共有する予定。

第 17 回 がん相談支援センター実務者ミーティング事務局会議 議事録

日時：平成 29 年 6 月 10 日（月）15:30～16:50

場所：兵庫県立がんセンター 2 階 大会議室

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央、西村牧子）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、岸野恵、酒見惇子）、兵庫医科大学病院（西村裕美子、三浦恵理子）、神戸市立西神戸医療センター（稲山友代、御園和美）

※同席：兵庫県立大学大学院生

議事内容

1. 本年度の活動計画について（活動目標の表に併せて進行）

1) がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める

- ・各施設がチェックリストをもとに問題点を明らかにして、質の改善計画を立案した。平成 29 年 3 月に開催した実務者ミーティングで、各施設の平成 29 年度の活動計画を共有した。
- ・毎回実務者ミーティングで、活動目標の達成状況を共有することが望ましい。
- ・全 4 回の実務者ミーティングの内容は以下とする。

	日程	内容	開催場所	担当病院
第1回	6月10日	事例検討	県立がんセンター	柏原病院
第2回	9月30日	相談員がピアサポーターと連携する上で必要なこと (※単位認定研修)	神戸大学病院	淡路医療センター
第3回	12月2日、9日、16日	ピアサポーターとの交流会 (※午前中、ピアサポーターフォローアップ研修)	県立がんセンター	姫路赤十字病院
第4回	3月3日、10日、17日	各施設の質改善活動の評価	県立がんセンター	関西労災病院

2) がん患者の就労支援を行う体制づくりをする

- ・兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センターと拠点病院の連携事業について、平成 29 年 3 月の実務者ミーティングで紹介を行った。
- ・施設によって連携先や内容が異なっているため、各施設の就労支援体制の共有を行い、まとめていきたい。毎回の実務者ミーティングで、連携状況等を報告する。

3) がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する

- ・県に登録されているピアサポーターは 3 か所以上の施設にいるが、2 対 1 の相談支援にまでには至っていない。各施設でのピアサポーターの相談支援体制の整備状況と、整備が困難な場合の理由を情報収集する（橋口さん）。
- ・がん対策推進基本計画が今年 7 月頃に策定されるが、今後ピアサポート事業ががん診療連携拠点病院の要件となる可能性が高い。その見通しを立てて動いていく必要がある。

4) 情報・連携部会と実務者ミーティングの合併について

- ・情報・連携部会に実務者を部会員にしてもらうように再度説明を行う。困難な場合は、情報・連携部会長から電話で各病院に相談を行うことも検討している。今年中に完了を目指す。
- ・実務者ミーティングは部会員以外の実務者でも出席可能とする。

5) 県内のがん相談支援の質の向上を推進する人材を育成について

- ・平成 29 年 6 月時点で、兵庫県の認定がん専門相談員は 13 名である。今年度も、引き続き呼び

かけを行い、新規4名の認定を目指す。

- ・認定がん専門相談員は、国立がんセンターが認定している事業であり、現時点ではがん診療連携拠点病院の要件には入っていないが、今後がん相談支援センターへの配置が求められる可能性が高い。

2. 単位認定研修について

- ・第2回実務者ミーティングは、単位認定研修とする。
- ・相談員の相談スキル向上を目的とし、単位認定に必要な研修時間を考慮し2時間半で開催する。
- ・同日開催するピアサポーター養成研修の講師である、おれんじの会代表の松本陽子氏にピアサポートの実際・病院での運用について、九州がんセンターの白石恵子氏にピアサポーターを支援するために必要なことを講演いただけないか調整する。謝礼は協議会より。

3. ピアサポート事業について

1) ピアサポーター養成研修

- ・平成29年9月30日（土）、10月1日（日）に神戸大学医学部附属病院で開催する。6月中旬に広報を開始する予定。
- ・募集定員を超えた場合は、地域性を優先し、受講申込書の記載内容により書類審査を行う。
- ・今年度より、養成研修を修了した時点で、県のピアサポーターとして登録できることとする。
- ・平成28年度のピアサポーター養成研修の部分参加者で今年度の参加希望者がいる場合は、2日間参加していただく。
- ・平成28年度と同様、ピアサポート事業の理解、ピアサポーターを知ることが目的に、がん相談員のオブザーバーを若干名受け入れる。

2) フォローアップ研修

- ・フォローアップ研修の位置づけが明確でなく、混乱を招く可能性が高い。受講者にわかりやすいように、全体像が分かる図の作成が必要である。県で作成していただく。
- ・昨年度は難易度をあげてフォローアップ研修を行ったが、難しかったとの意見があった。今年度は、研修の目的を「質の維持」「質の向上」とし、難易度の異なる2つの研修を行う。
 - ①フォローアップ研修（質の維持）：養成研修2日目、ロールプレイの実践
 - ②フォローアップ研修（質の向上）：交流会の午前中、ロールプレイの難易度を上げる
- ・研修の内容に合わせて研修名を変える（例：ベーシック/アドバンス）など、兵庫県の方で再度検討を行う必要がある。
- ・今後、養成研修とフォローアップ研修は県の事業として行っていただくものとなるため、県で計画と予算を話し合ってください必要がある。

4. その他

1) 地域がん支援フォーラム in 近畿について

- ・今年は奈良県と和歌山県が主催のため、協力要請が来ている。相談支援部門と現場、外との連携がテーマ。兵庫県の情報連携部会として協力していく。県のほうにも協力依頼を行う。

5. 次回日程確認

今回は、7月後半または8月最初で日程調整を行う。

今回は年間目標を書き足していく。

第 18 回 がん相談支援センター実務者ミーティング事務局会議 議事録

日 時：平成 29 年 11 月 9 日（木）15:00～17:00

場 所：神戸大学医学部附属病院 4 階 談話室

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央、西村牧子）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、酒見惇子）、兵庫医科大学病院（西村裕美子）、西神戸医療センター（御園和美）

議事内容

1. 兵庫県のがん対策推進計画(素案)の確認

1) 「兵庫県がん対策推進計画(素案)第 3 節医療体制の充実 3 がん患者の療養生活の質の維持向上(3) 相談支援体制の充実」について

- ・兵庫県の西村氏より、兵庫県のがん対策推進計画(素案)の概要について説明いただいた。就労、妊孕性など多様化するニーズに対して、正しい情報提供と相談支援体制の実現を個別目標として掲げられている。
- ・相談支援については数値化することが困難なため、具体的な数値目標は立てていない。
- ・個別目標の 2 番目と 3 番目には、病状や治療等を学ぶことができる環境整備が挙げられているが、がん相談支援センターの利用を推進する方策は具体的には決まっていない。
→がん相談支援センターの満足度や活用度について利用者調査を行っている病院もあるが、認知度については患者調査を行わなければ、把握は難しい。
- ・国の方で、PDCA サイクルを用いた相談支援の質の担保と格差の解消を図るよう施策としてあげられており、兵庫県でもすでに取り組みられているため、県の基本計画にも追加してはどうか。
- ・推進方策のアには、「県内のがん患者団体の連合体との意見交換を毎年定期的に行い、がん患者の視点に立った取り組みを実施するよう努める」とされている。ここで暗に示されているひょうごがん患者連絡会について、県内すべてのがん患者団体を代表していないこと、医療機関と建設的な話し合いが困難であること、実際に複数の医療機関の上層部から連携することに拒否的な反応があり新たに推進しているピアサポーター導入にも影響があること、などの問題がある。特定の患者団体との関係性構築ではなく、がん患者との意見交換と意見を取り入れた取り組みを行うべきとの意見が出た。
→情報・連携部会より、推進方策の文言変更の要望を行った。（「がん患者団体の連合体との意見交換」→「がん患者との意見交換」）

2) 「第 4 節がん患者を支える社会の構築 1 就労支援体制の構築」について

- ・個別目標に「ハローワーク、産業保健総合支援センター、社会保険労務士会等と連携した就労支援体制を構築する」とされている。
→病院ごとに、連携しやすい組織と就労支援体制を構築している。連携促進のため、産業保健総合支援センターには、実務者ミーティングで支援体制の説明をしていただいた。今後、各組織の支援内容の差異や支援の具体例などの共有をはかっていきたい。
- ・兵庫県労働局にて、兵庫県地域両立支援推進チームが設置された。がんに限定していないが、両立支援の推進事業のひとつであるため、動向を確認していく。
- ・国の第三次がん診療推進基本計画 64 ページの個別目標を、県としても取り入れていく必要があ

るのではないか。

3) 情報・連携部会の事業計画について

- ・今後取り組むべき事業については、PDCA サイクルに概ね組み込まれている。
→今後追記していく項目
 - ・がん相談支援センターの利用促進に向けた周知活動の実施
 - ・実務者ミーティングの場での、就労支援関連の各組織の支援内容や協働の実例の共有

2. ピアサポートの体制づくり・継続学習の支援について

- ・10月に開催したフォローアップ研修において、参加者の1名に聴力の問題がありグループワークに参加できる状況ではなかった。また、ご自身の考えを強く主張する場面も見られ、他の参加者が今後のピアサポート活動に不安を感じるなどの影響があった。
→12月に開催するフォローアップ研修にも申し込まれているが、研修がグループワークとロールプレイが中心であり、聴力の問題から参加基準に適さないと考える。県の方から、参加の断りを伝えていただく。
- ・次年度の計画として、ピアサポート事業は県主導で継続していくことを確認した。
→来年度の予算申請時に予算を確保できておらず、財源が不透明である。2月中旬に県の予算がたつため、その結果を待つ。今後ピアサポーターの養成は必須となると予想されるが、県の予算が確保できない場合は、各病院で持ち回りで負担する必要も出てくるだろう。
- ・ピアサポーターの質の担保が必要となる。
→兵庫県でのピアサポーター養成研修の目的は、サロンや患者会などの場面で必要となる最低限のコミュニケーションスキルや姿勢を習得することである。今後も研修会の内容等を検討していく。

3. その他

- ・相談員の質の担保も検討していかなければならない。
→利用者調査などを実施して、フィードバックを得ていく。
- ・地域相談支援フォーラム in 近畿が2月に開催される。参加申し込みが始まり次第、申し込みをしていただく。
→次回近畿で開催する場合は、兵庫県が主担当県となる可能性が高い。
- ・本年度の第4回実務者ミーティングの日程は、3月10日(土) 13:30~15:30とする。
→内容は、各施設の質改善活動の評価と来年度の事業計画の発表とする。第3回の実務者ミーティングの際に、評価シートの作成をしていただくよう連絡する。

4. 次回日程確認

日時：2月14日(水) 10:00~12:00

場所：神戸大学病院

内容：平成29年度の事業評価と平成30年度の事業計画

兵庫県がん診療連携協議会「がん登録」部会関連

項 目	内 容
平成29年度の活動報告	<p>○ 院内がん登録実務者ミーティングの開催(年3回開催予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回・院内がん登録実務者研修、グループ討議等 (5月24日: 県立がんセンター) テーマ: 兵庫県院内がん登録実務者ミーティング開催要領と今後の活動について -各圏域ブロックにおける治療統計分析- ・ 第2回・院内がん登録実務者ミーティング(研修) (9月15日: 兵庫県学校厚生会館) テーマ: 標準登録様式2016年版について UICC第8版について 講師: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 江森 佳子 ・ 第3回・院内がん登録実務者ミーティング (2月14日: 県立がんセンター) テーマ: 2015年登録数と治療別集計の公表案と今後の登録についての検討 公表案は「別表」参照 <p>○ 「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ と き: 6月16日 ・ ところ: 国際研究交流会館(国立がん研究センター) ・ 内 容: 報告事項(がん登録関連の動き、院内がん登録2015年全国集計結果等) 検討事項(全国集計の公表方法、予後調査支援事業等) <p>* 全国がん登録実務者研修会の開催 (8月25日: 神戸大学医学部会館シスメックスホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ: 全国がん登録への届出実務～電子届出票の作成から提出まで～ ・ 講 師: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録分析室長 柴田亜希子氏
平成30年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>○ がん診療連携協議会 がん登録部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月開催予定 <p>○ 院内がん登録実務者ミーティングの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回開催予定 (講義形式(9月)、院内がん登録数集計報告等(2月)を予定) <p>○ 「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月25日開催予定 <p>* 全国がん登録に関する研修会の開催(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催時期、内容未定

《平成29年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成30年 3月 末 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
が ん 登 録 部 会	がん診療情報を収集・分析する体制整備(がん診療連携拠点病院の役割)	拠点病院の指定要件として、院内がん登録のデータを活用し、登録数や各治療法についてのがん種別件数をホームページ等で情報公開するよう努めることとされている。 昨年度より県がん診療連携協議会のホームページにおいて加盟病院の登録数を掲載しているが、掲載内容は施設別・部位別の件数・割合のみであり、治療法等の掲載はない。	患者等に役立つデータの掲載に向け、情報の取り扱いに配慮しながら、県がん診療連携協議会がん登録部会の下部組織であるがん登録実務者ミーティング等で検討を重ねいく。 検討結果ついて、加盟病院に了解を得られたデータ等を協議会ホームページに掲載する。	H30年3月	○	達成	がん診療連携協議会のホームページに、国指定の拠点病院だけでなく、県指定の拠点病院、準じる病院も含め、院内がん登録を行っている施設の2015年院内がん登録数等のデータを掲載した。また、2015年胃・肺・大腸がんの施設別治療法件数・割合のホームページ掲載内容についてもがん登録実務者ミーティングで検討を重ね、平成30年2月に開催された県がん診療連携協議会幹事会において掲載案を報告、同年6月に予定しているがん登録部会において協議・決定する。	継続	患者等に役立つデータの掲載に向け、より充実した内容になるよう、実務者ミーティング等で検討を重ねていく。
	がん登録実務の精度向上	平成28年1月にがん登録等の推進に関する法律が施行され、院内がん登録実務者のレベルアップが課題となっている。	年3回(5月、11月、2月)開催するがん登録実務者ミーティングにおいてがん登録に係る情報を共有する。 各施設毎に国立がん研究センターが開催する中級者研修や更新試験、データ集計・分析研修に積極的に参加し技能を磨く。	H30年3月	○	達成	がん登録実務者ミーティングを3回(5/24、9/15、2/14)開催した。このうち第2回目は講義形式とし、国立がん研究センターから講師を迎え実施した。	継続	平成30年度は、がん登録実務者ミーティングを年2回開催し、そのうちの1回を講義形式で開催する。

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《平成30年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成30年 4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
が ん 登 録 部 会	がん診療情報を収集・分析する体制整備	拠点病院の指定要件として、院内がん登録のデータを活用し、登録数や各治療法についてのがん種別件数をホームページ等で情報公開するよう努めることとされている。 平成28年度より県がん診療連携協議会のホームページにおいて加盟病院別の件数・割合を掲載しており、今後、胃、肺、大腸がんの施設別治療法件数・割合も掲載する予定であるが、より患者のニーズに対応した掲載内容とすることが必要である。	患者等に役立つデータの掲載に向け、情報の取り扱いに配慮しながら、県がん診療連携協議会がん登録部会の下部組織であるがん登録実務者ミーティング等で検討を重ねいく。 検討結果ついて、加盟病院に了解を得られたデータ等を協議会ホームページに掲載する。	H31年3月					
	がん登録実務の精度向上	平成28年1月にがん登録等の推進に関する法律が施行され、院内がん登録実務者のレベルアップが課題となっている。	年2回(9月、2月)、がん登録実務者ミーティングを開催(うち1回は講義形式)し、がん登録に係る知識向上、情報共有等を図る。 各施設毎に国立がん研究センターが開催する初級者認定試験や初級者・中級者研修や更新試験、データ集計・分析研修に積極的に参加し技能を磨く。 (全国がん登録セミナーなど研修にも参加する。)	H31年3月					

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

平成29年度 がん登録実務者ミーティング（概要）

	開催日	内 容	開催場所	参加者
第1回	5月24日	<p>○がん登録実務者ミーティング開催要領と今後の活動について</p> <p>○グループ討議、発表、意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県で登録数の多いがん（大腸・肺・胃）の病期・治療別 2014 年集計結果分析 ・兵庫県がん診療連携協議会ホームページでの公表のしかたについて 	県立がんセンター	35 病院 54 人
第2回	9月15日	<p>○がん登録実務者研修</p> <p>テーマ：標準登録様式 2016 年版について、U I C C 第 8 版について</p> <p>講 師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 江森佳子氏</p>	兵庫県学校厚生会館	44 病院 77 人
第3回	2月14日	<p>○2015 年登録数と、治療別集計の分析と今後の登録についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県がん診療連携協議会ホームページ公表案について ・兵庫県で登録数の多い3大がん（大腸・肺・胃）の病期・治療法別 2015 年集計結果の分析について ・届出後の初回治療の追加登録について 	県立がんセンター	34 病院 47 人

全国がん登録実務者研修会（概要）

開催日	内 容	出席者数
8月25日	<p>○開催場所：神戸大学医学部会館シスメックスホール</p> <p>○テ ー マ：全国がん登録への届出実務 ～電子届出票の作成から提出まで～</p> <p>○講 師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録分析室長 柴田亜希子氏</p>	192 人

兵庫県がん診療連携協議会「緩和ケア」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ○第5回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(12月8日,国がん) ○緩和ケア研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会(平成29年11月11日(土)) ※上記会議、兵庫県私学会館にて開催(25名参加) 平成29年度緩和ケア研修会指導者の会(平成30年3月18日(日)) ○兵庫県緩和ケアチーム研修会(平成29年11月11日(土)) <ul style="list-style-type: none"> ※上記会議、近畿中央病院主催・兵庫県私学会館にて開催(74名参加) ○緩和ケアフォローアップ研修会の開催(平成30年1月8日)
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(未定) ○緩和ケア研修会の開催(1日型となるため、開催日程未調整) <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会(平成31年1月12日) ○兵庫県緩和ケアチーム研修会(平成31年1月12日) がんセンター主催 <ul style="list-style-type: none"> 「地域をサポートする緩和ケアチーム」 ○緩和ケアフォローアップ研修会の開催(せん妄、日未定)

《平成29年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成 30年 3月 末 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実 施 内 容	区分	今後の改善内容 (計画)
緩 和 ケ ア 部 会		PDCAによる計画を公表したのは32施設から25施設に減少。国指定でも9施設にとどまる。	周知不足の可能性もあり、メーリングリスト上で、PDCAを用いた推進計画を作るよう促す。	H29年11月	△	概ね 達成	PDCAすべてを公表、協議会HPへ掲載した。 公表施設は26施設。国指定でも9施設にとどまる。	継続	緩和ケアチーム研修会で掲載を促す 協議会、幹部会でも未公表施設があることを強調する。
	緩和ケアチームによるPDCAサイクルを用いた緩和ケアの推進	各病院での課題が明確でないかもしれない	緩和ケアチーム研修会前に課題を整理しようながす。 緩和ケアチーム研修会のGWにおいて、他施設の意見を聴く。	H29年11月	△	概ね 達成	メーリングリストでこれまで、プランのみの掲載であったが、PDCAを公表する旨伝えた。緩和ケアチーム研修会の開催日が11月となったため、年度末評価のタイミングが悪かったかもしれない。緩和ケアチーム研修会での相互評価を行ったが不十分であったかもしれない	継続	PDCAの内容を掲載前に相談する相手を作る 緩和ケアチーム研修会におけるGWの企画の工夫
		PDCAによるプラン作成方法が理解されていないかもしれない。	作成方法がわからない事に起因していれば、アドバイスを受けることのできる機会をつくる。 緩和ケアチーム研修会のGWにおいて、他施設の意見を聴く。	H29年11月	×	未達成	研修会を行ったが、情報収集出来なかった。	その他	PDCAの内容を掲載前に相談する相手を作る 緩和ケアチーム研修会におけるGWの企画の工夫

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《平成30年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成30年 4月1日 現在

部 会 名	P 実施計画				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
緩 和 ケ ア 部 会	各病院の緩和ケアチームによるPDCAサイクルを用いた緩和ケアの推進	公表施設が少ない(26施設)。国指定でも9施設にとどまる。	協議会、幹部会でもPDCA未公表施設があることを強調 緩和ケアチーム研修会のGWの企画改善 ピアレビューが確実にできるよう工夫する(レビューア어의指定など)	31年 3月					
	拠点病院以外の医師、歯科医師の緩和ケア研修会への参加促進	拠点病院における緩和ケア研修会参加者は概ね90%を越える。拠点病院以外の医師、歯科医師の緩和ケア研修会への参加状況は把握も不十分である。	指導者の会での共通認識の確認 1. 開催指針の変更にもない、県、群市区医師会へ緩和ケア研修会参加呼びかけを行う。 医師会に周知する(ゴールデンウィーク前までに県医師会週報に載せる) 2. 各開催病院は当該群市区医師会に働きかける 協議会ホームページに案内を掲載(4月第3週までに) 3. 年度終了時に、参加者の属性を調査し、過去の参加者と比較する。	31年 3月					
	他職種の緩和ケア研修会への参加促進	他職種の緩和ケア研修会への参加状況も把握も不十分である。	指導者の会での共通認識の確認 1. 協議会ホームページに案内を掲載する(4月第3週までに) 2. 各開催病院は他職種の参加を呼びかける 3. 年度終了時に、参加者の属性を調査し、過去の参加者と比較する。	31年 3月					
	緩和ケア従事者の質の維持向上	緩和ケア研修会修了者の臨床における困難への対応が不十分	緩和ケアフォローアップ研修会の開催参加へのアンケートで評価する	31年 3月					

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

都道府県ごとの緩和ケア研修会の受講率

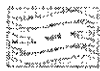
(平成29年3月31日時点)

	がん診療において、 がん患者の主治医や 担当医となる者	研修会修了者数	受講率
北海道	1642	1472	89.6
青森県	403	360	89.3
岩手県	518	424	81.9
宮城県	661	528	79.9
秋田県	394	361	91.6
山形県	418	377	90.2
福島県	638	476	74.6
茨城県	664	537	80.9
栃木県	974	727	74.6
群馬県	429	371	86.5
埼玉県	1163	910	78.2
千葉県	1483	1301	87.7
東京都	6252	4296	68.7
神奈川県	2146	1757	81.9
新潟県	651	419	64.4
富山県	605	525	86.8
石川県	540	407	75.4
福井県	489	388	79.3
山梨県	299	240	80.3
長野県	731	572	78.2
岐阜県	575	458	79.7
静岡県	1050	943	89.8
愛知県	2112	1944	92.0
三重県	401	340	84.8
滋賀県	445	419	94.2
京都府	1053	808	76.5
大阪府	2247	2020	89.9
兵庫県	1515	1267	83.6
奈良県	593	497	85.2
和歌山県	482	376	78.0
鳥取県	366	339	92.6
島根県	408	394	96.6
岡山県	822	701	85.3
広島県	1109	939	84.7
山口県	419	328	78.3
徳島県	426	383	89.9
香川県	696	527	75.7
愛媛県	577	526	91.2
高知県	258	223	86.4
福岡県	1557	1381	88.7
佐賀県	407	338	83.0
長崎県	443	411	92.8
熊本県	646	556	86.1
大分県	447	370	82.8
宮崎県	300	249	83.0
鹿児島県	551	404	73.3
沖縄県	294	247	84.0
国立がん研究センター	456	429	94.1
全国	41745	34263	82.1

拠点病院ごとの緩和ケア研修会の受講率

(平成29年3月31日時点)

	がん診療において、がん患者の主治医や担当医となる者	研修会修了者数	受講率
兵庫県立がんセンター	101	93	92.1%
神戸大学医学部附属病院	348	256	73.6%
神戸市立医療センター中央市民病院	151	146	96.7%
独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院	78	76	97.4%
公立学校共済組合近畿中央病院	44	42	95.5%
独立行政法人国立病院機構姫路医療センター	75	65	86.7%
姫路赤十字病院	105	98	93.3%
赤穂市民病院	64	48	75.0%
公立豊岡病院組合立豊岡病院	54	48	88.9%
兵庫県立淡路医療センター	78	73	93.6%
兵庫医科大学病院	257	178	69.3%
西脇市立西脇病院	54	49	90.7%
兵庫県立柏原病院	38	31	81.6%
神戸市立西神戸医療センター	68	64	94.1%



兵庫県がん診療連携協議会

兵庫県がん診療連携協議会について

協議会・幹事会開催記録

がん診療連携拠点病院とは

これまでの

緩和ケア研修会について

受講について

研修会予定表(平成29年度)

研修会案内ポスター

緩和ケア研修

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会について

-研修会はe-learningと1日の集合研修となりました。-

がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画(平成19年6月15日閣議決定)において、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標とし、緩和ケア研修会が開催されてまいりました。

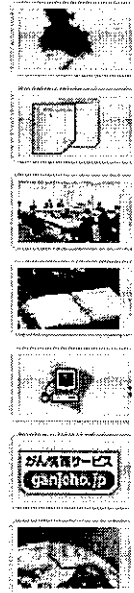
兵庫県ではこれまでに4352名が研修を修了しています。(平成29年度9月末時点)

本年度より新緩和ケア研修会開催指針(平成29年12月1日付け健発1201号厚生労働省健康局長通知)に基づき開催されます。これまでの2日間の集合研修からe-learningと1日間の集合研修へと変更されました。

また、がんその他の特定疾病の診療において適切に緩和ケアが提供されるよう、すべての医療従事者が基本的な緩和ケアを習得することが目的とされ、対象疾患も受講対象も拡大されています。

<受講対象者>

医師、歯科医師が対象ですが、緩和ケアに従事するその他の医療従事者の参加も望まれています。



受講について

集合研修受講には事前にe-learningの修了が必要です。

1. 緩和ケアe-learning受講には、まず以下のURLをクリックして、登録してください。

<https://peace.study.jp/pcontents/top/1/index.html>

2. 集合研修の申し込み

詳しくは下記開催施設にお問合せください。

<集合研修内容>

- ① e-learningの復習、質問
- ② 全人的苦痛に対する緩和ケア
- ③ がん患者等の療養場所の選択、地域における連携、在宅における緩和ケアの実際
- ④ がん等の緩和ケアにおけるコミュニケーション
- ⑤ 患者会講演または患者支援活動について

なお 2017年度までの単位型研修会は終了しました。

また、e-learningはすでに緩和ケア研修会を修了された方も受講していただけます。



平成30年度 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会予定表(H30.4.11在)

開催日	主催病院	定員	コメディカルの募集	問い合わせ先			締切日備考など
				電話番号	事務担当	企画責任者	
6月10日(日)	神戸市立医療センター中央市民病院			078-302-4321		李美於	
7月1日(土)	市立芦屋病院	30名	あり	0797-31-2156	総務課 高田 勢子	西本 哲郎 松田 良信	締め切り日 6月20日
7月7日(土)	県立柏原病院			0795-72-4270	がん相談支援センター	板倉 崇泰	
8月5日(日)	市立西脇病院	24名	あり	0795-22-0111	医事課 明山・高橋	木村 祥子	
9月1日(土)	県立淡路医療センター			0799-22-1200	がん相談支援センター 岡田 加代子	濱中 章洋	
9月1日(土)	神戸大学医学部附属病院			078-382-5111	がん相談室 上野・梶本	木澤 義之	
9月8日(土)	姫路医療センター			079-225-3211	がん相談支援室 間庭	和田 康雄	
10月14日(日)	宝塚市立病院	24名		0797-87-1161	経営統括部 大久保	吉川 善人 野間 秀樹	
10月14日(日)	赤穂市民病院	18名	定員(18名)のうち若干名	0791-43-3222	地域医療室 西山・富田	横山 弥栄	
10月21日(日)	神戸大学医学部附属病院			078-382-5111	がん相談室 上野・梶本	木澤 義之	
10月28日(日)	神戸市立西神戸医療センター			078-997-2200	(総務課) (医事課)	安藤 俊弘	
11月3日(土)	県立がんセンター			078-929-1151	総務課 小柴・城戸	池垣 淳一 田根 香織	
11月23日(金)	県立尼崎総合医療センター			06-6480-7000	医事課 増田	平林 正孝	
12月1日(土)	神鋼記念病院			078-261-6711	地域医療連携室 山田	浅石 真実	
12月15日(土)	姫路赤十字病院			079-294-2251	総合相談支援課 井上・中杉	福永 智栄	
12月15日(土)	兵庫医科大学病院			0798-45-6611	管理課 松本	棚田 大輔	

平成31年

1月20日(日)	近畿中央病院			072-781-3712	地域医療係 寺内	合屋 将	
2月2日(土)	西宮市立中央病院						
2月17日(日)	市立伊丹病院			072-777-3773	総務課 田中 久雄	堀木 優志	
2月24日(日)	加古川中央市民病院			079-451-8610	人事課 村尾	西澤 昭彦	

※開催日は、主催者の事情等により変更になる場合があります。

- ※緩和ケア研修会修了者の平成24年度累計 : 416名
- ※緩和ケア研修会修了者の平成25年度累計 : 373名
- ※緩和ケア研修会修了者の平成26年度累計 : 415名
- ※緩和ケア研修会修了者の平成27年度累計 : 688名
- ※緩和ケア研修会修了者の平成28年度累計 : 810名
- ※緩和ケア研修会修了者の平成29年度累計 : 616名
- ※緩和ケア研修会修了者の累計 : 4,643名

第8回 兵庫県緩和ケアチーム研修会

タイムテーブル

平成29年11月11日（土） 13:30～17:00

兵庫県私学会館 4階大ホール

開始時刻	終了時刻	所要時間	研修内容	担当/講師
13:30	13:40	10	挨拶/本日の説明	公立学校共済組合 近畿中央病院 第1呼吸器内科部長 合屋 将 先生 兵庫県立がんセンター 緩和ケアセンター長 池垣 淳一 先生
13:40	14:25	45	角度をかえてみよう！ 社会的苦痛をひろいあげつなく	【講師】 兵庫医科大学病院 社会福祉士 精神保健福祉士 三浦 恵里子 様
14:25	14:35	10	休憩	
14:35	15:20	45	予後予測について	【講師】 医療法人沖繩徳洲会 吹田徳洲会病院 緩和医療科部長 馬場 美華 先生
15:20	15:30	10	休憩	
15:30	16:50	80	PDCAサイクルについて	【講師】 神戸大学医学部附属病院 緩和ケアチーム専従・特定助教 緩和支援診療科 診療科長補佐・外来医長 坂下 明大 先生
16:50	17:00	10	ふりかえり	兵庫県立がんセンター 緩和ケアセンター長 池垣 淳一 先生

参加人数 74名

平成 29 年度兵庫県緩和ケアフォローアップ研修会開催報告書

報告日	平成 30 年 1 月 9 日
所属	神戸大学医学部附属病院
氏名	坂下 明大

概要	題名	平成 29 年度兵庫県緩和ケアフォローアップ研修会		
	実施期間	平成 30 年 1 月 8 日 (月) 13 時—17 時	場所	兵庫県私学会館
	目的	厚生労働省指定の緩和ケア研修会などを修了した医療従事者が、さらなる緩和ケアの知識・技術・態度を習得をすること		
	内容	がんに対する緩和ケアを心不全、呼吸不全、高齢者に対する緩和ケアとともに考え、幅広い実践力を習得することを目的として集合型研修を行う。		
	主催	兵庫県がん診療連携協議会		
	対象者	「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」医師、看護師、薬剤師		
	参加人数	96 名		

報告事項	内容	心不全患者の緩和ケア、呼吸不全患者の緩和ケアとともに、高齢がん患者の特徴や認知症患者へのケアについて講義を行った。		
	プログラム	別紙 添付資料 1		
	講師	兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科 大石醒悟先生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 小川朝生先生 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 心療内科 松田能宣先生		
	参加者	医師 38 名 看護師 36 名 薬剤師 19 名 心理職など 3 名 運営スタッフ 7 名		
	次回予定	次年度の開催については、兵庫県がん診療連携協議会にて検討予定		

添付資料 平成 29 年度兵庫県緩和ケアフォローアップ研修会プログラム概要

兵庫県がん診療連携協議会「地域連携」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肺がんのイレッサとタルセバのパスに関しては、審議してきたが現時点で作成困難である。 ○ 大腸癌ESDパスは承認された。その運用につき検討を要する。 ○ 電子化について、審議は進んでいない。検討を留保する。
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ がんパスの使用状況につき各部会で検討する ○ 大腸癌ESDパスの運用につき検討する。

《平成29年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成30年 3月 末 現在

部会名	P 実施計画				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
					区分	実施内容		区分	今後の改善内容(計画)
地域連携部会	パスの利用率の向上	パスの利用率は徐々に向上しているものの、いまだ十分とは言いがたい。特に県指定拠点病院や準拠点病院での利用率は低く利用率の向上が望まれる。	1 28年度のパスの運用状況について調査を行う。 2 すべての拠点病院での運用を図る。 3 利用率が上がらない施設での、問題点や取り組みについての報告会を開催する。	H30.3	△	未達成	地域連携パスの利用は施設間差がある	継続	再度パス運用状況を調査 各部会で利用率向上を検討する
	新規パスの作成	大腸内視鏡治療のパスの運用の検討が必要である。肺がんの術後補助療法パスの要望があり、現在作成中。今年度中に作成し、HPに登録を目指す。 パスの電子化については、一般化や費用の面で問題点があり今後の検討が必要。	1 大腸がんESDパスの運用を検討する。 2 肺がんのイレッサとタルセバのパスを作成する。 3 電子化については問題点を整理し解決方法を検討する。	H30.3	△	未達成	肺がん化学療法パス作成は中止した パス電子化は保留とした	継続	大腸がんESDパスの運用を検討

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《平成30年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成30年 4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
地 域 連 携 部 会	パスの利用率の向上	パスの利用率は未だ十分とい いがたい。県指定拠点病院や 準拠点病院での利用率向上 が望まれる。	1 29年度のパスの運用状況について調査する。 2 すべての拠点病院での運用を図る 3 各部会ごとに、問題点や取り組みを検討する。	H31.3					
	がんパスの作成と運用	大腸がんESD/パスの運用の検 討が必要である。	大腸がんESD/パスの運用を検討する。	H31.3					
	がん地域連携の問題点 の抽出と検討	がん地域連携につき、その問	1 がん地域連会につき問題点を抽出する 2 問題点を共有する 3 解決可能な問題点につき、各部会で解決策を検討す	H31.3					

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。